

ものが全面改築に変更されてのこと。なぜそのようになったのか。

場所、規模、財政等のいろいろな問題をクリアしながら平成22年4月でできるのか。

**A** 賀茂幼稚園ができた平成16年に第2番目として九会幼稚園を3園合同で立ち上げるといふようなことを進め、そういう中で基本的にはあまり手をかけず、したがって金をかけず幼稚園構想を実現していくのである。18年には、田原地区の強い要望などを意識した結果、田原の民営への移管なども含めて検討をさせていただきましたが、民営移管の話がどうも無理だということになり、18年11月に再び3園統合というふうなことで、今度は急速に動き出せるというふうな状況になったと我々も判断いたしました。

そういう中で、大きく精査をしようというふうになりました。その中でかなりの金をかけて部分補修と増築をやって、さらに数年後、あるいは十数年後でもいいと思いますが改築をするというふうなことになる。二重投資というふうなことを考えて、ならば最初から改築を視野に入れてやっていたらいいというふうな感じになります。歴史的な経過です。目標実現に向けて、いろいろな条件は

ありますけれども、最大限の努力をしてまいりたいというふうな考えであります。

## 人間ドックの充実

**Q** 人間ドックの充実、予防の見地からも非常に重要な診療医療であり、また病院の健全化にも役立つもの。人生の大きな節目となっている60歳で一度人間ドックを受けるというPRを市民にされてはどうか。団塊世代の夫婦の健康体操教室に参加する前に、改めて自分の体の隅々まで知っておく、そしてそれをもとにした健康体操をするということが、これからの健康維持には必要と思うが、見解、取り組みへの考えをお聞かせ。

**A** 人間ドックについては、市民の健康増進に寄与するための予防医学の一環として、やっているとあります。今回、たくさん希望、要望等もあり、日帰りドックに脳ドック、CT、超音波検査、それからオプショント検査にマンモグラフィの検査をお願いしているところであります。今回、担当部署で60歳の検診を人間ドックでやるとはどうかという検討課題をつけ検討していただきました。病院としては、特定の部位や疾患に

関してのより精密な検査というふうな観点、臨床的な診断、治療というふうな観点から、病院に見合うものがないまま改正をお願いしている分野ではないかと。この60歳の検診が、保険行政等のタイアップ等を考慮して考えられる事業ではないかということもありませんので、今回は検討課題として置いておくということに考えています。

## 財政問題の広報活動

**Q** テレビでは加西市の負債が700億という市長の夕張市関係のニュースで報道されていた。700億という数字だったが、これは聞いていると正確とは違っているように思いました。

**A** 報道によると、まるで夕張市よりも悪いという感じを持たれた市民もいるのではないかと。ちなみに、夕張市の負債は3553億円とそのテレビの番組の中で出ていた。広報として正確に伝える義務があると思いが、

**A** 加西市の負債、すなわち将来にわたる債務については、おおむね700億円で、市の広報紙にも元金と利息を合わせるとそういう金額になるという旨、明言しているところです。一部報道機関が採用してありました夕張の負債が三

百数十億というところですが、これには公社、三セウを含めた連結ベースが恐らく含まれておりませんので、他の報道機関によりますと635億円というふうな報道もござります。夕張が国に提出しました財政再建では、18年間で353億円余りの赤字を解消するという計画になっております。夕張がいま抱えている借金の全部が、18年間で返済されるというものではございません。このように、赤字の総額を単純に加西と夕張で比較するのはなく、市民一人当たりの将来負担も加えた、そして関連法人も加えた連結での赤字を明示することが、市民に対してわかりやすい公会計のあり方であると考えております。

ちなみに、加西市の借金を仮に元利合わせて700億として、新聞報道等により夕張の借金を360億とするとおおよそ夕張の借金は半分ですが、一方夕張の人口は加西市のおおむね4分の1で、夕張の一人当たりの市民の借金は、加西市に比べて2倍の借金を背負っているということになります。その辺の財政赤字の構造が市民にわかりやすく伝わるように、今後加西の財政問題を市民に折に触れて説明、開示していきたいと考えております。そのために、しっかりとした第三者の監査を経て、前

提条件を明示した公会計を示していく必要があると考えております。

## 人口減少の対応施策

**Q** 本年度から60歳定年が段階的にピークをここから数年迎えられると言われている。地元のUターン対策、希望が非常に多い中で、市としてもこれらの住宅、あるいはPR等、具体的な施策についてはどうか。

**A** Uターンの増加、受け入れに関しては、良質な住宅を安価に提供できるようなことが必要だと思っております。空き家情報も含めて、加西にはこういうよい住宅環境があるんだということをPRする必要があります。そして、よい働き口が加西市にはあるんだ。元気な会社、伸びている企業もあり、市役所の仕事も外部や民間に開放していくと、そういう方向性を与えれば、Uターンが増えていくものと思えます。そして、やはり若い人には買い物や娯楽などの多様な都市サービスがあることが不可欠です。学校や病院も必要。やはり、外からUターンしてきて、魅力的だなと思ってもらえるためには、よき者を排除するふうな、そういう風土は今後改めていかなければならないと考えているところです。